

年 度 評 価 シ ー ト (令和元年度)

課名 障害福祉企画課

施設の名称 静岡市桜の園	指定管理者名 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 静岡県済生会
-----------------	-------------------------------------

1 履行状況

業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。

(1) 維持管理業務

①健康管理

- ・血液検査、尿検査、胸部レントゲン検査等の実施により、利用者の健康管理が適正に行われている。

②危機管理、防災対策

- ・防災マニュアルに則り、年間を通じて地域等と連携し、計画的に訓練等を実施し利用者の安全確保に努めた。
- ・防災訓練（月1回）は様々な事態を想定した内容の訓練が行われており、適切な活動となっている。あわせて防犯対策についても取り組みいただきたい。
- ・防犯カメラの設置行い、安心できる環境を整えた。

③建物・設備等の保守管理業務

- ・建物や設備の保守管理は第三者委託により実施し、各業務とも適切に行われている。ただし、産業廃棄物の処理について、一部適切に実施されていなかったことから、改善の必要がある。
- ・各種定期点検を実施し、不具合等が確認された場合、速やかに修繕等の措置が取られた。

(2) 施設利用者数

施設種別	定員	1日平均利用者数	年間のべ所在者数
施設入所支援	50	47.4 (44.1)	17,348 (16,094)
生活介護	50	47.7 (44.3)	12,477 (11,518)
生活介護（通所）	30	17.3 (18.0)	4,186 (4,344)
短期入所	5	3.7 (2.7)	1,321 (996)
日中一時支援	—	0.2 (0.2)	36 (49)

入所施設の施設利用者の高齢化、重度化、医療的ケアの必要性などにより退所者が4名となった。公的機関の訪問等に努めた結果、比較的若く、自立度の高い8人が新規に施設入所支援の利用を始め、短期入所の新規利用者の増にもつながった。日中一時支援については、利用者を適切な他サービスにつなげることにより、現在規模を縮小している。

(3) 事業実施状況

①施設運営関係

- ・地域交流やボランティア・実習生の受け入れにより利用者と地域住民が交流する機会が設けられ、障がい施設に対する地域住民の理解を深める取り組みが行われている。
- ・職員研修実施により、専門的知識及び技能の習得、職員の資質向上に努めた。令和元年度は、特に、感染対策に重きを置き、そのための研修を合計7回実施し、職員の意識向上につなげた。

②利用者支援関係

- ・利用者の施設利用等に係る各種手続が適正に行われた。
- ・作業療法士による集団・個別リハビリが実施され、身体機能の維持に努めた。
- ・日常生活への潤いや楽しみとして、月1回のレクリエーションの実施や入浴の際にBGMやアロマを利用するなど、利用者の日々の生活の充実を図った。
- ・食事の提供については、利用者会や嗜好調査で出された要望にできるだけ答えるために、新たなメニューの取り入れ、行事食の提供などに努めた。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望については随時受付けている。苦情については法人の苦情取扱要綱に基づいて対応しており、重要な案件については法人が設置している第三者委員会へ報告し、協議することとしている。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 市民アンケート

本施設は、身体障がいのある人が、入所及び通所する施設であるため、利用者が限定されており、広く市民一般を対象としたアンケートは実施していない。

(2) 利用者満足度調査

施設利用者に対して年1回満足度調査を行っている。いずれの項目も「はい」「まあまあ」と答えた利用者が7割程度であった。より高い満足度が得られるよう、アンケート結果を踏まえ、職員一丸となって利用者のニーズに寄り添った支援検討を重ねていただきたい。

食事については、29パーセントの利用者が「満足していない」と答えた。~~が~~、昨年度の32パーセントより改善しているが、アンケートの意見を踏まえて、満足度の向上を目指した取組をすることが必要である。

4 指定管理者の経理状況の評価

平成28年度より利用料金制を導入しているが、目標入所者数48.8名に対し実績は47.4名、短期入所は目標3.3名に対し3.7名、生活介護は22.2名に対し17.3名となった。前年度に比べ、入所と短期入所の利用率は増加したものの、生活介護職員の欠員が生じ、体制加算の取得が出来ず、予算の額まで収入を得ることができなかった。また、感染症対策として医療費、衛生用品費が増大したこと、年度末には感染症対策のために利用率が伸び悩んだことから、令和元年度収支は赤字となった。本年度の改善の効果の見られた取組を継続し、さらなる経営改善に取~~り~~組まれたたい。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	有

施設全体の運営は、概ね事業計画通り実施されている。

施設の保守・点検等も、必要な維持管理が適宜なされている。

昨年度のモニタリング調査においては、以下の点について改善を求めたが、いずれも実現していないため、取組を進めていただきたい。

①訓練の実施等防犯対策を行うこと。

②人員配置体制加算（I）等の各種加算の取得を目指し、安定した収入の確保を図ること。

財務運営については昨年度に続き赤字となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、経営自体は改善されていると考えられるため、上記②等に取り組み、更なる改善を目指していただきたい。

利用者満足度に係るサービス評価アンケートについても、良好な結果が得られているが、食事内容等一部改善が求められる項目もあるため、適宜改善が必要である。

満足度調査の際に寄せられた意見や要望については、随時改善等の対応をしているほか、対応状況を保護者会懇談時にて説明するなど、利用者への配慮が伺える。

また、契約者数増に向けた取組みは、効果を上げているため、継続して実施されたい。

今後も利用者の意見等を随時取り入れながら、良好な施設運営を維持していくよう市とともに検討していくこと。